

東日本大震災津波から9年の行方不明者捜索

～ 海上保安部とともに、岩手県釜石港の海中、海岸等を捜索 ～

釜石警察署は、東日本大震災津波から9年を目前にした3月6日、釜石海上保安部、宮城海上保安部及び岩手県警察本部嘱託警察犬指導手とともに、総勢66人で釜石港と周辺海岸における行方不明者の海中・陸上捜索を実施しました。

釜石港公共ふ頭で行った合同捜索開始式で、渡辺博史釜石海上保安部長は、「釜石市では震災で100人を超す行方不明者がいる。力を結集して手がかりを届けたい。」とあいさつ。仲谷警察署長は、「今回は宮城海上保安部の協力を得て水没車両の潜水捜索も行う。各機関が得意とする専門能力を発揮して成果を挙げてもらいたい。」と呼びかけました。

海中捜索は、本年1月にタグボートの抜錨(ばつびょう)に偶然引っかかって海上まで持ち上がり、外れて再び水没した普通乗用車の周辺に潜水し、手がかりを求めました。宮城海上保安部の巡視船「くりこま」配属の潜水士8人が2人ペアで約30分間捜索して水没車両を確認。車内に人がいた形跡はなく、ギアがパーキングで、エンジン始動キーもないことから、津波に飲み込まれた駐車車両とみられますが、今後、車両の所有者を探す方針です。

一方、釜石警察署と釜石海上保安部の陸上班は、釜石港付近の海岸等で、とび口やレーキで砂利や草をかき分け、行方不明者の手がかりや思い出の品を探し、骨片数個を発見しましたが、いずれも野生動物のものと判明しました。

捜索に参加した川村彩桜巡査は、「行方不明者家族のため、どんなに小さな手がかりでもいいから届けたい。」と述べました。

当署では、今後も行方不明者家族らが希望する陸上・海中捜索を随時実施することとしています。



合同捜索開始式であいさつする仲谷署長

岩手・釜石大槌推進会議がテロ対策訓練実施

～ 巡視船の高圧放水銃実演等で活動能力を情報共有 ～

釜石警察署は2月19日、テロ対策釜石大槌パートナーシップ推進会議の活動の一環として、テロ対策訓練を実施しました。

同推進会議は昨年7月、ラグビーワールドカップ2019釜石開催に備えて結成。釜石警察署が事務局となり、釜石海上保安部、釜石大槌消防本部、釜石市、大槌町、JR釜石駅、三陸鉄道及びイオンタウン釜石で構成しています。

今回は、東京2020オリンピック・パラリンピック、聖火リレー、釜石鶴住居復興スタジアムにおけるラグビー国際試合の開催を見据え、最前線でテロ対策に当たる海保、警察、消防の装備品、活動能力を情報共有することで、更なる連携強化を図ることを目的としました。

訓練は、釜石海上保安部庁舎と平成30年就航の巡視船「きたかみ」で実施。庁舎では、渡辺博史釜石海上保安部長が訓練の意義を訓示し、海保、警察、消防の防護服、盾等のテロ対策装備品を確認しました。巡視船では、ブリッジで基本性能と操船機器を確認した後、違法船の制圧や消火に使用する高圧放水銃による放水実演、搭載する巡視艇の降下・航走・収納訓練を視察しました。

訓練後、仲谷警察署長は、「昨年の台風19号では、孤立した海浜地区に巡視艇が2トン以上の水を海から届け、住民の命を救った。それぞれの装備と活動能力を情報共有することで、三機関合同オペレーションを円滑に推進できる。」と述べました。

テロ対策釜石大槌パートナーシップ推進会議では、今後も訓練実施や情報共有を行い、テロの封じ込めを目指すこととしています。



釜石海上保安部巡視艇の降下訓練状況